

I-548 地中管路の耐震診断エキスパートシステム (その1)

神戸大学 学員〇大久保高志
神戸大学 正員 高田 至郎
神戸大学 学員 孫 建生
大阪府 正員 難波 孝行

1. はじめに 土木工学の分野においても、コンピュータ利用技術の急速な普及を背景として実用システムの開発を目指して学会を始め業界においても、研究開発が活発に行われている。しかし、実用システムとして活用されているエキスパートシステムはごくわずかであると言うのが現実である。本報では、地震による被害の防止のための事前対策の観点から、2次元的な広がりを持つガス管路の耐震性を評価するに当たり、構築ツールOPS83¹⁾を用いたエキスパートシステムの構想と現状について報告する。

2. OPS83によるエキスパートシステムの構築

(1) OPS83について

OPS83の特徴は、主に次のような利点が挙げられる。一つには、ルールはコンパイル時に機械語にコンパイルされパターンマッチアルゴリズムを用いて実行されるので、実行速度が速い。またルールを用いることによってIF-THEN型で問題になるPROGRAMの複雑さが解消される。他には、他言語とのリンクが可能であり、既存のPROGRAMの知能化も試みることができる。

システムの構造は、推論エンジン、ワーキングメモリ、ルールベースの3つに大別される。

ワーキングメモリは、ワーキングメモリエレメントと呼ばれるレコード構造の集合からなりプロダクションシステムにおけるデータの主要な格納場所である。

推論エンジンを用いることによってこのワーキングメモリに生成された条件とルールベ

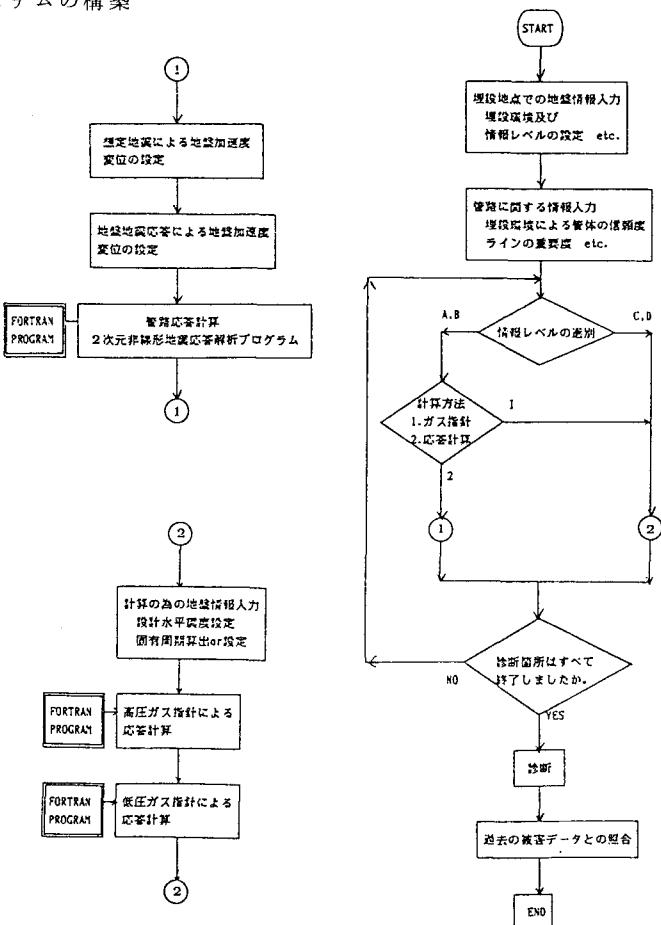


図-1 フローチャート

– ス中のルールのLHS部（条件部）とを照合し、照合した場合ルールのRHS（実行部）を実行させるのである。

(2) 本システムについて 本研究では、計算部分をFORTRAN PROGRAMとして記述し、これとのリンクを実現している。本文以下では、図-1に示すフローの内、ガス指針を診断基準とした場合のみについて報告する。図-1によってリンク部分の位置関係を示すと共に、システムの概略フローを示した。

本文で開発したエキスパートシステムでは、使いやすさという点で地盤条件を管種別、診断単位毎に入力することは、きわめて膨大な作業となることからあらかじめガス指針に基づく地盤条件に関する数値を最悪となるような値を設定し、この最悪値が適用できると判断全でなければその箇所についての地盤条件を入

3.想定ガス管路への適用 想定ガス管路として図-2を想定した。管種の総数は2で、口径300の溶接鋼管と口径100の溶接钢管で異形部数も2で曲げ部とT字部である。地盤条件としては最悪条件を与える。入力は、ユーザー側からのものとシステムに組み込まれているデータベースとかなり、これらの入力が終了した時点で推論エンジンを呼び出し、ワーキングメモリエレメントとルール集合の照合を開始する。システムが尋ねる質問内容について図-3に示した。

4. 結果及び今後の構想 システムの結果表現方法は、現段階では、安全であるか否かの2通りでありこの想定ガス管路に関しては高圧ガス指針による耐震性評価では、最悪条件ですべて安全であると診断された。本システムは、地中管路の総合的な耐震診断エキスパートシステム開発研究のいわばプロトタイプであり、今後、評価の基準として限界状態設計法の概念や、2次元非線形地震応答解析プログラムの導入を行う予定である。

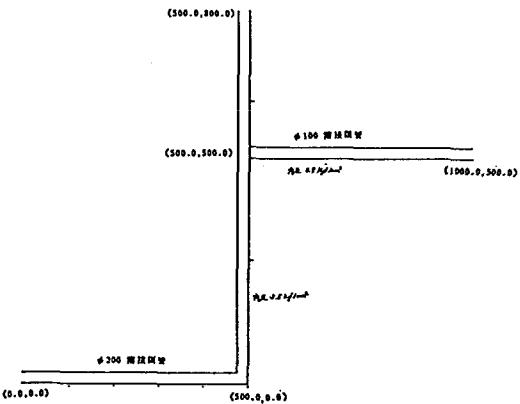


図-2 想定管路モデル

参考文献： 1) C. L. Forgy : 人工知能用言語 OPS83, ハーツナル銀行(株)